

第3期第6回川崎市多文化共生社会推進協議会 会議録（摘録）

会議名	第3期第6回川崎市多文化共生社会推進協議会
日 時	令和7（2025）年5月14日（水） 10時～12時
場 所	本庁舎306会議室
出席した者の氏名	委員 (1) 大西 楠 テア 委員 (2) 小ヶ谷 千穂 委員 (3) 孔 敏淑 委員 (4) 南 昭子 委員
	事務局 市民文化局市民生活部多文化共生推進課 (1) 小出課長 (2) 吉留担当課長 (3) 三田村課長補佐 (4) 松長根課長補佐 (5) 緒方職員 (6) 河田専門調査員
欠席した者の氏名	本田 量久委員
議事及び公開・非公開の別	議題（公開） 1 開会（公開） 2 本日の日程、資料確認（公開） 3 今年度の審議計画について／第3期のまとめと報告書について（公開） 4 令和6年度外国人市民意識実態調査の結果について（公開） 5 その他（公開） 6 閉会（公開）
傍聴者	0名
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 座席表 ・ 委員名簿 ・ 資料1 川崎市多文化共生社会推進協議会（第3期）審議計画（案） ・ 資料2 第3期川崎市多文化共生社会推進協議会報告書について ・ 資料3 令和6年度外国人市民意識実態調査の結果について 川崎市外国人市民意識実態調査報告書 令和7（2025）年3月 （概要版・本編） ・ 資料4 地域日本語教育の推進に関する部会資料 ・ 資料5 川崎市外国人市民代表者会議年次報告＜2024年度＞ ・ 参考資料 令和6（2024）年度かわさき市民アンケート報告書抜粋 ・ 第3期第5回川崎市多文化共生社会推進協議会会議録（摘録）

1 開会

○小出課長（会議の成立、会議の公開について説明）

2 本日の日程、資料確認

○三田村課長補佐（日程説明、資料確認）

3 今年度の審議計画について／第3期のまとめと報告書について

- 小ヶ谷会長 本日の進め方について、事務局から説明をお願いします。
- 三田村課長補佐 (資料1・2に基づき説明)
- 小ヶ谷会長 今の説明について質問はあるか。
- 南委員 個別課題の検証についての順番だが、これは協議会で扱った順番になっているが、指針の施策推進の基本方向の番号順のほうが良いのではないか。
- 小ヶ谷会長 これまでは、扱った順になっているが、確かに指針の順番に沿っているほうがいいと思うので、今期の報告書では、指針の順に沿って入れるということにしたい。ほかに質問はあるか。
- 大西委員 施策の検証の総括はどのようなイメージか。
- 小ヶ谷会長 前は総括がなかった。その他ヒアリングで扱わなかった施策についてという項目だった。次回指針の進捗状況の報告をしてもらい、その中で、どんなふうに出ているかとか、この辺りは定着しているねとか、そういう議論を次回することで全体のまとめのようなことをイメージしている。
- 小ヶ谷会長 総括は私が書くことを想定している。これまでは項目ごとに検証して終了していたが、総括としての、どうして今期はこの施策を選んだのか、そういうことも含めて、議論できたらいいのかと思った。
- 大西委員 次回議論してみて、総括として報告書に入れるか、「おわりに」として入れるのかも考えられるかもしれない。
- 小ヶ谷会長 「はじめに」と「おわりに」の項目も私が書く。では総括については次回議論も踏まえてとする。次に執筆分担について。昨年度の最後に執筆は、私と大西委員、本田委員の3名で行うこととし、孔委員と南委員にはドラフトの確認などで携わっていただきたいと考えていたが、それでよいか。
- (異議なし)
- 小ヶ谷会長 分担は、図書館に関しては本田委員ではないかと思う。本日は本田委員が不在だが、このテーマの提案者でもあり、前回の協議会で本人も担当するつもりというお話があった。あとは私と大西委員でどうするか。
- 大西委員 では、医療を担当する。
- 小ヶ谷会長 高齢者についてはどうか。
- 大西委員 両方を担当するとなるとあまり自信はないが、審議記録を添付しながら、内容については、他の方々にもサポートしていただければと思う。
- 小ヶ谷会長 どれも今回の議論の報告と、それについてのコメントと課題の提示という形で作成していく。では、まとめると、「はじめに」を小ヶ谷、それから多文化共生プラザが小ヶ谷、図書館が本田委員、医療を大西委員、高齢者も大西委員、それから、総括が小ヶ谷、「おわりに」も私小ヶ谷が書くということで分担するというのでいいか。そして、総括の項目は次回の議論を経て、もしも不要というようなことになったら、私が高齢者のほうもお手伝いするというような形にしたい。
- 小ヶ谷会長 スケジュールとしては、今年度3回目の協議会にそれぞれ担当の箇所のドラフトを提出する。それを踏まえて、第4回で議論を行い、第5回で確定するという進め方にしていきたい。
- 小ヶ谷会長 事務局のほうには、リマインドと、これまでの摘録を改めて送っていただきたい。

- 三田村課長補佐 送付するのは、次回の協議会終了後でよいか。
- 小ヶ谷会長 できれば早めに送っていただいてもraitたい。
- 三田村課長補佐 報告書のフォーマットになるようなものと、報告書の材料に使えるよう、議事録を改めてワードファイルで送るようにしたい。
- 小ヶ谷会長 では、以上で報告書の分担、それから進め方について、決めたということでもよろしくお願ひしたい。

4 令和6年度外国人市民意識実態調査の結果について

- 小ヶ谷会長 令和6年度の外国人市民意識実態調査の結果について、事務局から説明をお願いします。
- 三田村課長補佐 (資料3を基に説明)
- 小ヶ谷会長 市民アンケートに多文化共生の話を、質問を入れたというのは今回が初めてか。
- 三田村課長補佐 はい、初めてである。
- 小ヶ谷会長 前期の協議会においても、外国人市民意識実態調査の際に、日本人の意識についても調べる必要があるという議論があったところだ。
- 三田村課長補佐 そういった議論も受けて、今回、市民アンケートに多文化共生に関する質問を入れた。
- 小ヶ谷会長 このアンケートの結果も、経年で見られると施策との関係性を確認することができるためよいと思う。横浜のどこかの区で、外国人区民向けのアンケートと日本人市民向けのアンケートの両方を行っていたはずで、そういった例もある。
- 三田村課長補佐 今回の市民アンケートを作る際に、新宿区、大田区、広島市、浜松市などを参考とした。
- 小ヶ谷会長 もし、調査等を通じて外国人市民の意識と日本人市民の意識の違いなどが分かれば、指針の方向性を作る際の助けにもなると思う。先ほどの事務局の説明について、委員の皆様から何か質問はあるか。
- 孔委員 外国人市民意識実態調査について、以前と比べて回答の数が少ないと思う。
- 小ヶ谷会長 回収率は20%であるから、そこまで少ない数字ではないと思う。
- 三田村課長補佐 過去3回の調査の回収率も、20%前後である。
- 孔委員 もう少し回収率を上げることはできる気がする。
- 小ヶ谷会長 自由記述欄を見ると、たくさんの方が書いていて、回答してくださった方は、伝えたいことがたくさんあるのだと思った。
- 大西委員 市民アンケートの回答率はどのぐらいであったか。
- 三田村課長補佐 今回の市民アンケートは、インターネット調査でモニターを1,500人まで募る形である。平行して郵送調査もやっており、そちらの回収率は確か5割近くであった。日本人のほうが回収率が高いことはたしかである。
- 小ヶ谷会長 回収率が5割近くというのはすごいと思う。ところで、私と本田委員は、報告書において考察を書いている。本田委員が以前言っていた話では、予想していたよりもポジティブな結果が出ており、分析がやや楽観的になったかもしれないとのことだった。ただ、アンケートに積極的に回答してくれる方は、層がある程度特定される傾向にあるという面がある。一方で、川崎の先進的などころがよく出ている調査結果であり、本田委員は、川崎が相対的に住みやすい環境であるということ踏まえたうえで、外国人住民の余暇について考察をしている。
私のほうの考察では、外国人住民の家族の形が多様化してきていることに注目した。例えば、外国生まれの人の比率が増え、日本生まれの人の比率が減っているということや、

また、外国籍同士の家族が増えていることに関するデータがあった。家で日本語を使わない子どもが増えているということが明らかになったので、依然として、学校、地域の両方で言語のサポートが重要であると思った。ほかには、外国人市民対応の難しさが多様化しているという点で行政サービスの範囲を広げておく必要があるということを書いている。また、ベトナム国籍の方の凝集性が高く、日本人との家族形成は少ないので、言語サポートが今後必要になるかと思う。日本全国において現在、国籍別人口について、中国国籍の次がベトナム国籍となっており、川崎においても同じ状況になっているのだと思う。

また、報告書においては、川崎市内の区ごとの特徴も整理されているのでぜひ読んでほしい。

- 大西委員 情報の入手方法について、インターネットという回答がやはり一番多い。また、日本語能力で困っていないという回答も多くあり、これは、翻訳アプリなどのサポートを使いながら自己肯定感を持っていることの表れかもしれないと思った。
- 小ヶ谷会長 確かに、5年前に比べてツールが増えてきおり、それに伴う変化はあると思う。5年前に比べて、「不安に感じる度合」が少し減っていることについては、報道でもピックアップされていたが、「川崎市差別のない人権尊重のまちづくり条例」の影響が大きいと思う。一方で、「インターネットやSNSへの書き込みへ感じる不安・危険」のポイントが若干増えていることも留意する必要がある。住居差別に関する設問については、前期の協議会でもヒアリングなどがあったが、なかなか現実問題として解消することが難しいことを、孔委員もしばしば指摘されている。
- 孔委員 現在、ゲストハウスやシェアハウスに住む人が結構増えてきている。
- 南委員 4ページに言語ごとの回収率が書かれているが、何か傾向はあるのか。郵便できたものに対して郵便で答えるという行為の日常性に関する傾向が分かるかもしれないと思った。
- 大西委員 確かに「重要」と書いていなかったら捨ててしまう人もいると思う。
- 三田村課長補佐 どの言語の回収率が高かったかということは分析していない。調査票は無作為抽出で5,000件発送しており、発送後しばらくしてから、礼状と未回答の方への回答の再度の依頼を兼ねたものを改めて発送している。その結果今回は、8月末時点で1,031件の回答があったのだが、こうした方法や結果を踏まえて、郵送がよいのか、ネットがよいのかなど次回以降の調査方法の検討をしていくことになると思う。
- 小ヶ谷会長 この調査は、国籍について質問する項目があり、それが分析の土台となっている。調査の形態について、インターネット調査は回答しやすい面があるが、ほかにとっても難しい面が一方である。行政の調査で、モニター調査的以外のスタイルで、インターネットを使った方法はあるのか。
- 三田村課長補佐 市民アンケートは今は年に2回行っており、1回はインターネット調査、もう1回は郵送調査である。郵送調査では、有効回収率は46.3%であった。ただ、インターネット調査というのは、基本的にはモニター調査となり、傾向を見るにとどまるため、郵送調査との両方で 行っていく形になると思う。
- 小ヶ谷会長 5年後には、傾向も変わっている可能性があり、使いやすくよりよい調査手段が出てくるかもしれない。定期的な実態調査の意義はすごく大きいので、やはりこれを継続していただくことが重要だと思う。

5 その他

地域日本語教育の推進に関する部会からの報告

- 吉留担当課長 (資料4を基に説明)
- 小ヶ谷会長 ゼロビギナー講座の対象者は、どういう層を想定しているのか。
- 吉留担当課長 入国直後の方を想定しているが、実施場所が高津市民館であり、外国人社員を要する企業が近くにあるため、社員の家族などを想定している。そのほか、各市民館によく来訪する方の知り合いなども想定している。
- 大西委員 キャリアアップのための日本語講座について、技能実習生など働いている人のキャリアアップはとてもよい。特に技能実習を経て、特定技能の在留資格を目指す人にとって役に立つと思う。市がこういう取組をしていることを企業に向けてアピールできれば、事業者内で外国人労働者の日本語能力を向上させることの必要性について、事業者に意識を持ってもらえると思うので、大きく広報をしてもよいのではないかと思います。
- 小ヶ谷会長 キャリアアップのための日本語講座に関連して、仕事で使うカタカナ言葉が外国人にとって分かりにくいという意見をよく聞く。
- 孔委員 福祉関係の仕事では、カタカナの専門用語が多い。
- 小ヶ谷会長 日本語全体として、英語と日本語が混ざった和製カタカナのような言葉が増えている傾向にあるのではないかと。別の話になるが、参考資料1の上から3行目のところで、プレスクールと書いてある。川崎でも、プレスクールを制度化して実施しているのか。
- 吉留担当課長 プレスクールは教育委員会で実施しており、また、国際交流センターで開催されている。教育委員会では、7区で実施している。
- 小ヶ谷会長 横浜市のプレスクールに見学に行く機会があったのだが、そこでは、一般の小学校の中にプレスクールがあり、2週間ほど日本の学校の文化などを学ぶというようなことをやっていた。その修了式に行った際に、受け入れている小学校の先生などが見に来ておられてとてもよいイベントだと感じた。川崎市ではプレスクールについてどのような取組をしているのか。
- 吉留担当課長 期間を設けてそこに通うという形ではなく、単発で小学校入学前説明会という形で実施している。
- 小ヶ谷会長 横浜市では、小学校入学前だけではなく外国人児童が途中転入できた場合も、1週間程度、プレスクールで日本の学校文化などを学び、その後、一般のクラスに戻るといったことだった。小学校と中学校でそういった取組がされており、重要な取組だと思った。

外国人市民代表者会議の年次報告について

- 小ヶ谷会長 次に、外国人市民代表者会議の年次報告について、事務局から説明をお願いします。
- 三田村課長補佐 (資料5を基に説明)
- 小ヶ谷会長 多くの新聞社に取材されたということで、1996年から継続して行われている取組であり、注目が集まったり、広く周知されるということはとても素晴らしいことだと思う。今期の協議会でヒアリングしたテーマの中に「医療」があったが、代表者会議においても医療通訳の育成の話が出ているとのことで、重要なポイントなのだろうと改めて思った。
- 孔委員 代表者会議は2年1度市長に提言を出している。最近、多文化共生社会をテーマにした新聞記事などで、代表者会議のことも書かれていたりして、川崎の取組が進んでいるとい

う意味で取り上げられているのではないかと思った。また、別の県に住んでいる知人から、川崎市では外国人市民たちが集まって自分たちの意見を出し、それが市に反映されるという仕組みがありよいことだと思うという話があった。ほかにも、去年は川崎市制100周年であったが、それをきっかけに、多文化共生社会というフレーズが色々なところから出てきたのはよいことだと思った。

○三田村課長補佐 代表者会議としても、昨年、川崎市制100周年を記念して、国際交流センターで代表者会議同窓会を開催し、1期から15期までの歴代代表者全員を招待した。孔委員も出席された。様々な期の方が混ざる形でグループディスカッションを行い、交流会もした。その日の午後には、同じく国際交流センターで開催された多文化共生フォーラム・コンサートに参加された方も多くいて、多文化共生について考えていただくきっかけづくりができたと思っている。

○小ヶ谷会長 とても素晴らしい取組だと思う。私は代表者会議のオープン会議に参加したが、代表者と参加者がとても楽しい雰囲気の中で会議が進み、また、何人か高校生も来ていて素晴らしいことだと思った。代表者会議のこれまでの提言や現在議論されていることと、この協議会で話し合っていることが、大きく重なっていると感じた。連携しながら進めていくことがやはりよいのだろうと改めて思った。これで議事は以上となるが、他に事務局から連絡事項はあるか。

○三田村課長補佐 次回の日程調整については改めて連絡する。

○小ヶ谷会長 ほかに何かあるか。無ければこれで第5回多文化共生社会推進協議会を閉会する。

6 閉会

以上